

伊方町議会第 7 9 回定例会に係る一般質問通告内容

質問者	質問の大綱	質問の相手
田村 義孝 議員	1 町有施設の民間活用提案に対する評価、検証について	町 長
質問の要旨		
第二期高門町政では、「未来への責任」をスローガンに掲げ、重要施策の 1 つとして、人口減少対策に取り組んできたと理解しております。 人口減少対策では働く場所の確保と住環境の整備ということで、町有施設の「民間活用提案」で民間の投資を促し、町内経済及び雇用の促進、住宅の確保を図るということであったと理解しています。 私としましては、町有施設の「民間活用提案」は素晴らしいと思うのですが、人手不足の中でしっかりと子育て世代が生活できる安定した給与を確保できる正職員ではなく、パートやアルバイトの方々の比率が高く、なかなか町内の人口減少対策には結びつきづらいのではないかと考えております。 遊休地をピックアップして興味のある企業と話をするのは良いのですが、町としてこのような業種、業態、あるいは正社員の比率をもっと高めるような伊方町としてこのような企業にきていただきたいというビジョンを明らかにし、それに賛同してくれる会社に来てもらうべきではないかと思えます。 以上もふまえられて、町長、ご自身でふり返られて、町有施設の「民間活用提案」に対する評価、検証はどのようにされておられるか、現状はどのような雇用や住宅利用の成果をあげているか、お尋ねいたします。		

質問者	質問の大綱	質問の相手
田村 義孝 議員	2 避難道と豊予海峡ルートについて	町 長
質問の要旨		
第三期高門町政では、原発の避難道、いわゆる命の道である高規格道路の伊方町方面への延伸要望、整備のため頑張っていきたいと町長は町ホームページの「就任のごあいさつ」にて訴えられております。 それは住民の安全安心、命を守るためにとても重要なことだと思います。私も、10 月に参加させていただいた「第 14 回全国原子力発電所立地議会サミット」でも、交流させていただいている福島原発立地町の議員さん方からも、ご自身の経験から避難道の重要性を特に言われておりました。 それに関連してではないですが、現在、愛媛県と大分県で豊予海峡ルートの推進についての動きが少しずつ水面下で行われていると思います。 伊方町におきましても、東側の高規格道路への避難アクセスはもちろんですが、それとは別に伊方原発西側住民の避難として橋をかけることによって、九州にスムーズに避難できるような状況を作ること重要であると思います。 また、人口減少、少子高齢化が進むわが町において、架橋により観光需要の増加が見込めたり、建設による地域経済への貢献がはかれると思います。		

何より町民にとって安全、安心をえられることはもちろんのこと、人口減少、少子高齢化で閉塞感が漂う伊方町にとって、将来に夢を抱くこともできる大型プロジェクトではないかと思います。

そこで県や国、周辺市町と連携して豊予海峡ルート推進を進めていくべきと思いますが、町長はどのようにお考えかお尋ねいたします。

また、現在、伊方町への高規格道路延伸はどのような状況になっているかもお尋ねいたします。